

ホタルのニュースレター

日本ホタルの会 2013 / 8 第 60 号

林 長閑氏を悼む

日本ホタルの会名誉会長 矢島 稔

6月2日の夕方、通夜の行なわれた妙蓮寺の空に綿をのばしたような雲が連なり静かでおだやかな夕暮れに包まれ、やがて西の方から紅い光が射してきました。私は一人ありし日の林さんのおだやかで笑みを含んだ顔を思い出しじっと動かずに目を閉じました。

おだやかで話をする時も実に落ち着いた姿をくずさない方でした。やあ、ありがとうございますという声に目をあげると農大名誉教授の立川周二さんと同じ大学の先生方数人がお出でになり小俣理事も加わりました。

林長閑さんは1928年、兵庫県芦屋市に生まれ、東京農大を卒業後法政二高の先生を長くされ、甲虫類なかでもその幼虫の生態を中心に研究され農学博士を北大で取得されました。その後文化財害虫研究会の理事をされ、日本ホタルの会を創った時に是非とお願いして理事になっていただきました。多くの研究をされていますがミヤマクワガタの生態を明らかにされ世界で初めて卵からの飼育に成功された事は有名です。私はたまたま動物園協会の理事の時東洋大学の講師を依

頼されましたが毎週林さんも講師で来られ、敦煌(トンコー)へ行った時のすばらしい漠高窟中の壁画や古い仏を見てまわった時の感想を伺いました。林さんはこういう古文化にも非常に興味をもつ方でした。一方かわさき宙(そら)と緑の科学館を拠点にするかわさき自然調査団のリーダーとして生田緑地公園の生物調査に当り周辺の昆虫調査を多くの調査団員に観察の大切さを訴えていた事を科学館の職員から聞いていました。

こうした現場での地道な活動を研究者として行ないホタルの会の理事として、この一帯の種類、特に陸生ホタルの調査についても比較検討されていた事を参加者はよく覚えているといいます。本会の運営についても考え方、方針についてははっきり意見を示され、この会の基礎造りに貢献されました。これ迄の功績に心から御礼を申し上げ心から御冥福をお祈り申し上げます。

(やじま み の る)

林 長閑先生を偲んで

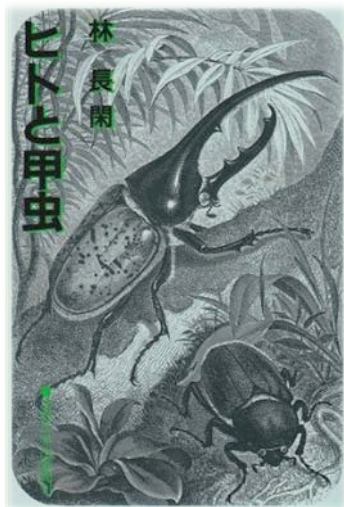
2013 年(平成 25 年)5 月 29 日に林長閑元理事がお亡くなりになりました。享年 84 歳でした。先生は 1928 年(昭和 3 年)兵庫県芦屋市のお生まれで、東京農業大学をご卒業後、法政大学第二高等学校の生物の先生を勤められました。甲虫類の幼虫の研究で大変著名な方で、北海道大学で農学博士の学位を取得され、「日本幼虫図鑑」、「甲虫の観察と飼育」、「甲虫の幼虫の見分け方」など多くの著作があります。また、(財)文化財害虫研究所、かわさき自然調査団の理事の他、東洋大学の講師も勤められております。

日本ホタルの会では、1999 年度(平成 11 年度)から 2005 年度(平成 17 年度)まで理事をお引き受け頂いております。その間、2002 年(平成 14 年)10 月からは副会長も兼務されております。2001 年(平成 13 年)9 月の談話会では「水生甲虫の幼虫」のご講演を頂き、翌年 1 月には、人里へのニュースレター(20 号)の巻頭に「ベニボタル」をご執筆頂きました。

また、2002 年(平成 14 年)6 月に川崎市西部の生田緑地で行われた観察会では、現地の解説を行って頂き、クロマドボタルやスジグロボタルなどの昼行性のホタルを観察することもできました。

先生の著作の「甲虫の幼虫の見分け方」(ニューサイエンス社、昭和 56 年発行)の一番最後のページには、ヘッケルの反復説(個体発生は系統発生をくりかえす)が示すように、系統分類にとっても幼虫の研究は大切であり、生態系の研究においても幼虫の種名や生態が判らないことが障害になっていることが多いけれども、成虫に比べて幼虫の研究を志す人が大変少ないことが述べられています。至近的な要因追求型の効率よく無駄なく論文化できる研究ばかりが陽の目を見る現在、地道に現象を観察・記述して辿り着く究極的要因追及型の研究がもっと見直される日が来ることを願いつつ、ご冥福をお祈り致します。

日本ホタルの会事務局編(文責:鈴木)



2013 年度 観察会報告

環境省 松本 牧子

6月22日に神奈川県横須賀市の逸見にて行われたホタルの観察会に参加させていただきました。

人生初のホタルとの出会いだったのですが、その儚い光とゆったりとたゆたう様に、ただただ見入っておりました。

この日の観察会はホタルについての説明会と注意点から始まったのですが、まずここで今まで思い描いていたこととの違いに驚かされました。ホタルが匂いを出すこと、セミのように土の中にもぐること、光る種のほうが少ないことなど驚きは数多くというよりほとんどだったのですが、何よりも同じゲンジボタルがその土地毎で遺伝子が違うということが衝撃的でした。お話を伺って、自然環境を守り、蛍を放つ、それだけでは解決しない問題があることに、失ってしまった土地でのホタルの再来の難しさを感じました。

ホタルの存在とその光に心洗われたことで、この環境を維持する為に心を砕いて下さっている方に心から感謝の気持ちになりました。

また、これから関西方面の違う環境で飛び交うホタルにも出会う機会を得られたらと、梅雨の不快な時期が楽しみに思えました。



(まつもと まきこ)



群馬県・栃木県にあるホタルの里の紹介

日本ホタルの会理事 川村 善治

群馬県は、谷川岳や尾瀬などに代表される自然豊かなところで、ジャパン・スネークセンター（日本蛇族学術研究所）やぐんま昆虫の森など、自然の体験と学習ができる施設もそろっています。ホタルの観賞会も月夜野をはじめ各地で催されており、いくつかのホタルの里を紹介します。

【桐生市 梅田ホタルの里】

群馬県桐生市梅田町にある清流広場のホタルの里。地元住民による「梅田ホタルを愛する会」が結成され、ホタル鑑賞会が催されています。



群馬県桐生市「梅田ホタルの里」



清流広場内にあるホタルの案内板

【みどり市 長尾根ほたるの里公園】

群馬県みどり市大間々町にある長尾根ほたるの里公園。自然景観およびホタルの環境保護のための公園が設置され、公園の管理に関する市の条例も制定されました。



群馬県みどり市「長尾根ほたるの里公園」



公園内にあるホタルの案内板

【鹿沼市 中粕尾・和田用水ホタルの里】

栃木県鹿沼市中粕尾にある中粕尾・和田用水ホタルの里。親水公園になっており、地元の「中粕尾水と緑の会」と「和田用水ホタルの里の会」によるホタル鑑賞会が催されています。また、生きもの調査活動の報告や講演会なども行われています。



栃木県鹿沼市「中粕尾・和田用水ホタルの里」



周辺の水路とあずま屋

【足利市 ゲンジボタルの里】

栃木県足利市松田町のJR足利駅の北西、山の多い奥深い里山にあるゲンジボタルの里。平成 15 年ごろ村の有志が 10 名で発足しました。会長は長老で亡くなった後、現在は 4～5 人の会員です。今の会長は中山稚嘉氏(2代目)で、ホタルの好きな有志で行っています。

飼育場は約 600 坪で、半分の 300 坪は会長中山氏の土地。乾季時はポンプで水路の水を入れます。冬は飼育場の水路の水がなくなるため村の小学生が学校で先生と育てて春に水路に放します。外部からの幼虫、成虫は絶対に入れません、カワニナだけ採取しています。去年は 700～800 匹(6 月 15 日前後)夜空に飛び回りました。ホタルの時期になると足利の幹線道路に松田のホタルの里の旗を数十立てます。足利市からの補助金が必要なため観覧者から 1 人 100 円の募金を行っていますが大変苦勞しています。



栃木県足利市「松田ゲンジボタルの里」



奥深い里山約 600 坪。周囲は鉄線金網で囲まれた防御柵(イノシシ対策)

講演会報告

2013.6.13-14



図 1

島根県邑南町講演会

日本ホタルの会副会長 鈴木浩文

この度、島根県邑南町(おおなんちょう)下口羽(しもくちば)の田辺政行様より講師派遣の依頼が参りました。邑南町口羽地区の長田川はゲンジボタルの生息地として知られ、昭和38年に島根県の天然記念物に指定されました(図1、2)。ちょうど今年が50周年に当たります。同地の自然環境は良く残されており、ここ数年でホタルが激減しているという状況ではありませんが、天然記念物の指定にご尽力なされた当時の方々の思いが薄らいできていることもあり、50周年を機会に再度“環境とは?ホタルとは?”を地元の方々と考えてみる学習会を催すことになりました。

講演は6月13日と14日の2回行いました。初日は天然記念物指定地に隣接するホタル公園の「ホタルの館」で、小学生を交えた一般の方々を対象にゲンジボタルの生態と生息環境について解説しました。ホタルの館には、ゲンジボタルの一生を通じた写真が大きなパネルで展示しており、生態の理解に助かりました。講演の後は、ホタル公園内での観察を行いました。子供たちはホタルを手にとり、ゲンジボタルとヘイケボタルの違いや、



図 2

オスとメスの違いを確かめました。次の日は、阿須那公民館「はすみ文化プラザ」で、小学生3～4年生を対象に、ゲンジボタルの飼育と観察について解説しました(図3)。観察については、数種類のホタルの標本を手にしてもらい、胸の模様やオスメスの違い、他のホタルとの違いをスケッチで体験してもらいました。

講演・観察会終了後には、電灯に集まったカワゲラなどの水生昆虫が室内に入り込み、掃除をしなければならないほどで、自然の豊かさを感じさせてくれました。また、邑南町は



図 3

特別天然記念物のオオサンショウウオの生息地としても知られ、子供たちを取り巻く自然環境は、たいへん恵まれていると言えます。今回の天然記念物指定 50 周年を機会に、邑南町には「はすみホタルの会」が発足しました。今後の活動に期待したいところです。

INFORMATION

事務局からの お知らせ

理事会等報告

2013 年 5 月 26 日東京都内にて理事会を開催し、横須賀市での観察会実施の詳細及び事務局の運営などについて検討しました。

また、2013 年 8 月 30 日に東京都内にて理事会を開催し、シンポジウム内容、矢島名誉会長の日本動物学教育賞受賞への対応、事務局業務分担について決定しました。

ホタルのニュースレター（第60号）

2013年 8月25日発行

編集 日本ホタルの会事務局

発行 本多 和彦

〒197-0011

東京都福生市福生487（日本ホタルの会事務局）

TEL&FAX：042-530-2111

e-mail：mail@nihon-hotaru.com

URL：http://www.nihon-hotaru.com

印刷 青森コロニー印刷

東京都中野区江原町2-6-2

TEL：03-5996-2761



日本ホタルの会

JAPAN FIREFLIES SOCIETY



日本ホタルの会
JAPAN FIREFLIES SOCIETY